

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297300028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム袋井(東ユニット)		
所在地	静岡県袋井市堀越2-14-1		
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyogyoCd=2297300028-00&serviceCd=320&type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺の環境面として、近隣に入居者様と一緒に散歩ができる大きな公園があります。天気の良い日には、散歩などにも出かけて気分転換を図っております。飲食店やホームセンターなども車で5分以内の場所が多く、外出の機会を持ちやすい環境に恵まれているため、事業所外の活動も定期的に行い、普通の生活が継続できるよう努めております。また、ご利用者様の心身の状況や認知症の症状について情報収集と分析を行い、適正量の水分摂取や栄養改善、運動などのプログラムを実施し、心身の状態を整え、症状を改善・緩和させることによって、もう一度自分の思いを表出できるような状態をつくり、一人ひとりの当たり前の生活を実現し、その人らしく生きることを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人をあげて力を入れた「自立支援ケア」で目覚ましい変化がみられた事業所です。暴言があり、お茶を淹れても口にできなかった利用者に寄り添って、屋外でもコーヒーやお茶を勧めたところ徐々に水分摂取量が増え暴言もなくなり、歩行能力のアップと夜間の安眠につながっています。また、幻覚や幻聴で眠れず表情が陰しかった人には、ココアやミルクティーなど好みの飲み物を聴き出して提供を続け、その結果幻覚等の出現がなくなり服薬量も減るとともに生活リズムが改善され、穏やかな表情を取り戻すなど、エビデンスに基づいたケアでその人本来の姿を知ることができた達成感に職員はやりがいを感じています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が ○ 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を掲げその理念を掲示しながら、共有を図っている。	今年度より新たに法人から「理念ブック」が配付され、さらに中途採用職員研修で理念の浸透を図っています。法人全体で力を入れた「自立支援ケア」によって、介護理念に示される「快適で穏やかな生活」が実現できたことが職員のやりがいにもつながっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティア等の受け入れや、運営推進会議の定期的開催、地域の防災訓練参加や納涼祭への参加など行っているが、ホームから発信することがまだ少ない。	自治会長の任期が一年ということもあり、年度初めには挨拶と共にグループホームの特性をわかりやすく説明しています。また、通りを挟んだ場所に昨年4月より保育園が開設し、コロナ終息後の交流を申し合わせています。	地域交流や運営推進会議の開催が叶わないため、地域代表に事業所を知ってもらう場が作れていません。運営推進会議議事録を通じて理解が進むよう、書面構成の工夫を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症サポーター講座の講師参加など、認知症の関係で協力できるところは行っていたが、コロナ禍もありできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて集まり自体ができず	コロナ禍により書面開催としています。2ヶ月ごとに入居者数と行事報告を記載した簡易な議事録を市介護保険課、自治会長に直接届けていますが、意見交換まではおこなえていません。	「事業所運営の透明性の確保」「サービスの質の向上」「地域との連携及び交流の確保」等、本来の運営推進会議の目的に叶った議事録がメンバーに届けられることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの連絡については、メール連絡が主であり、ホーム側からの連絡については内容の重要度を考え、電話やメール、実際に行政を訪問したりしている。	運営に関する内容やコロナワクチン接種について等、都度丁寧な回答をもらっています。中東遠総合医療センター看護師による感染対策勉強会への誘いがあり、市内グループホーム管理者を集め、会場として事業所会議室を提供しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の研修や予防週間の設定を行ない、身体拘束についての理解と予防を会社全体で行っている。	3ヶ月毎の委員会開催、職員(新任職員)への研修と滞りなく適正化への取組をおこない、法人で定められた四半期毎の「虐待・不適切なケア」「身体拘束」チェックシートで自身や事業所内でのケアを振り返り、委員会で気づきを話し合って意識づけています。	委員会では常日頃のケアは省みられていますが、利用者ごとの事例検討を共有し、議事録に整理することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダーには、チェックシートを2ヶ月おきに記入してもらい、各ユニット内での状況を確認し報告をしてもらうようになっている。		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回ではあるが、全体会議内で研修を行っている。なかなか制度自体を全て理解できるような所までは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書等の読み合わせを行ない、説明を行なっている。不明な点があれば、随時問い合わせに返答を行っている。(管理者)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社にて毎年ご家族様アンケートを行ない、状況を把握している。結果はホーム内へ掲示する事と、問題点については対応策を検討し、ご家族様に対してもお便りにてアンケート結果を報告している。	一人ひとりの一ヶ月の様子を写真とコメントで知らせる「福来老(ふくろう)通信」を継続しています。コロナ禍で昨年度に引き続きアンケートは実施できておらず、家族等が意見を表出する機会は減少しています。	運営推進会議議事録の送付等で事業所の取組を伝えるとともに、意見・要望を聴取する機会が作られることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行ない、職員の要望を確認している。契約社員については、契約締結前には必ず行っている。正社員については、随時行う形である。	密となる全体会議は避け、毎月のユニット会議で意見を出し合い、ケア方法や環境整備等、現場に関する事は協議の上実行されています。管理者は3ヶ月毎に個人面談をおこなって、職員の悩みや相談に応じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	マネージャーにて、各ホームの点検を行ない、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて研修を担当する部署があり、管理者の研修や新卒スタッフ研修なども積極的に行なっている。中途採用のスタッフについては、各エリアマネージャーが中心となり、研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は近隣のグループホームとの交流があり、運営推進会議への参加やお互いの行事への参加もあったようだが、現在は行っていない。		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族に記入して頂いた情報をもとに、まずは傾聴を心掛けるようにしている。信頼関係を築く事を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームへ入居するに当たり、聴き取りができる範囲で困っている事、不安な事について伺っている。しかし、家族関係など言いにくいことなどがあった場合、入居されてからわかる事もある為、随時調整を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランへ反映できることは行っているが、入居されてからわかってくこともある為、随時ケアプランへ織り込む形を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なかなか出来ていないのが現状である。どうしても職員のペースで行ってしまう事が多くなってしまう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かがあればご家族にすぐ連絡し来て頂いたりして、共に本人を支えていく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される前に趣味で行っていた句会への参加を途切れないように、送迎なども行い続けていたが、現在は行えていない。	面会は玄関で透明フィルム越しに10分程度としています。外出や活動の写真が添えられた「福来老通信」に必ず目を通す家族から、「以前よく出かけていたバラ園に連れて行ってほしい」との要望も聞かれ、次のドライブ計画が進められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などや性別なども考慮し、利用者同士が支え合って生活できるように努めている。(食席の考慮など)		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的には行っていないが、クレーム等の考えから、ご家族様から要望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話などから、思いや意向を知ることを心掛けているが、なかなか出ていない状況である。どうしても職員主導になりがちである。	居室担当を設け、モニタリングの際には体調・精神面の様子、心に留まった言葉、介助・援助が必要なこと、笑顔がみられた時、好きなこと・夢中になれること、3ヶ月後にどのようになってほしいか等、日頃の気づきを「サービス担当者会議資料」に書き留めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聴き取りを行ない、生活歴の把握に努めている。(聴き取りは、ご家族様が主となる)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時にアセスメントを行ない、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス(ユニット会議)を行ない、意見を出し合い、介護計画を作成している。ご家族様には、電話や面会の時に話を伺っている。	「サービス担当者会議資料」をもとにユニット会議でケアカンファレンスをおこない、変更点を話合せて計画作成担当が介護計画を作成し、介護支援専門員がチェックしています。リハビリ専門職からの助言をもとに生活機能向上計画書も作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録があり、生活における記録をつけている。情報共有しなければいけないことは、書面にして伝えたり、連絡ノートに記入しユニット内の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービスも2021年4月より開設、現在は人不足により受け入れができていない。		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内の取り組みだけにこだわらず、インフォーマルサービスを活用した取り組みも行っている。地域の俳句の会や敬老会など参加していたが、コロナ禍もあり行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の確認を行っているが、今までの所が良いようであれば、無理に主治医の変更は求めていない。しかし、実際には受診の付添いの関係により、ホームの往診を希望されるご家族がほとんどの状況。	月に一度訪問診療をおこなう協力医に全員が変更し、コロナ禍の現在、専門医は職員が受診支援しています。現場からの意見や確認したいことは往診ノートに書き出し、週に3日勤務する看護師と薬剤師が訪問診療に立ち会い、結果を往診記録に記しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1~2回の勤務(7時間)ではあるが、限られた時間の中で体調管理を中心に行ない、普段の状況を的確に伝えるように努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送される病院が開催する情報交換会には参加をしている。入院した際には、情報提供を社内の書式にて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応などについても、書面にて説明と同意を頂く書類を準備している。特に看取りについてのホームでの考え方については、しっかりと説明を行っている。	基本的には生活の場であり、看取りはおこなわない方向であることを家族には伝えていますが。未経験の職員も多く、受け入れ態勢における課題もあります。転居も含め、本人や家族にとって最善のあり方を都度相談・対応していく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご家族様への緊急時連絡ファイルを整備し、急変や事故の発生に備えている。研修の中でシミュレーションを行ない、実際に起こった時を想定し、対応方法を勉強した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回の訓練(法律上の必要回数)を実施している。地域の方も参加できる形が良いと思われるが、まだ実施できていない状況。	9月に夜間想定訓練をおこない、あと一回を年度内に実施する予定です。指定避難場所まで夜勤職員2名が誘導した場合、12分かかるとはわかり、今後の対策に一石を投じています。備蓄は法人管理で一週間分あり、発電機、卓上コンロの備えもできています。	指定避難場所までの避難の現状を鑑み、避難誘導の再構築と、地域との協力体制が進められることを期待します。

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	禁止用語の掲示など、言葉使いにはきをつけて声掛けをしているが、なかなか全ての職員ができていくわけではなく、改善が必要。	入職時に接遇の研修があり、定期的に「不適切ケア」がないか省みて、尊厳を守るケアを働きかけています。焦ると大声になってしまう場合には声のトーンに留意するよう管理者からアドバイスし、気になる職員には個人面談を通じて指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類などについては、自分で選択できる方は行って頂いているが、どうしても同じ服に偏りがちである為、職員が立ち会うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務フロー的な部分で動いてしまう傾向があり、利用者一人一人の希望に沿ってすべてで来ているわけではない。それに向けて努力は行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂き、お化粧品もされている。爪や髪などについても気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みによって、ランチョンマットを使用されている方もいる。その日の状況によってもあるが、お箸をセットしたり食事の配膳を行ったりして頂く。	調理職員と一緒に「切る」「炒める」ことができる利用者が5名おり、徹底した衛生管理の中で活躍しています。夏のバーベキュー、ひな祭りのちらし寿司と手作り桜餅、クリスマスのバイキング、パフェやクレープ等のおやつ作りも盛んで「食の楽しみ」を堪能しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理については、本社にて献立を作成している。水分量は毎日チェック表をつけて管理している。(毎日1000mlは飲むように心掛けている)飲みすぎてしまう方もいるため、注意をする場合もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科と口腔ケア(朝・夕が基本)を行ない、誤嚥性肺炎などの予防を行っている。		

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ごとに排泄表をつけながら、排泄のパターンを理解しトイレでの排泄の援助や、失禁にて不快な思いをさせないように努力を行っている。	自立支援ケアで日中多めの水分摂取を促したところ、昼間のトイレ回数が増え夜間頻尿が半分に減って睡眠がとれるようになった例や、夜間はおむつでベッド上での介助だった人がポータブルトイレ使用に変わるなど目覚ましい効果があらわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を管理し、運動への働きかけは近くの公園などへ散歩に出掛けている。日報への便秘日数記入により、職員の便秘への意識を高めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は午前中の中の入浴が主であるが、行事の関係や季節によっては外出を行う事をメインに、午後の時間に入浴を行う事もあり。声掛けにて入浴して頂き、無理強いはいしない。	一人ひとり湯を入れ替え、選べる入浴剤でゆずや檜の香りに浸り、端午の節句には菖蒲湯もおこなっています。拒否がある人には好きな音楽を流すことで気持ちよく応じてもらえ、ゆったりと湯船につかり「この曲が終わるまで～」とご満悦な様子もうかがえます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子を使用されている方や、足の浮腫が目立つ方は午後の時間など、横になって頂く機会を持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所に全利用者が処方されている薬の一覧を準備している。各ユニットにも、処方内容がわかるようにコピーしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味的な事については、その方が何が好きなかを把握して、外出やホーム内での過ごし方に役立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍にて家族や地域の方々との外出ができない状態が続いている。職員が花見、いちご狩りなど考え外出している。	職員が3人そろそろ9～10時と夕方4時以降は散歩の時間と定め、平日、人出の少ない時間帯を見計らってドライブにも出かけています。紅葉が見事な森町の古刹や、新東名サービスエリア、車イスでも入れる貸し切りのイチゴ狩りは毎年恒例になっています。	

自己評価および外部評価結果

東ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、職員が管理しているが、外出時にお金を手渡し払って頂くこともある。しかし、被害妄想などのある場合などには、出来ない場合が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があれば、事務所など落ち着いた場所でかけてもらうようにしている。手紙については、書かれる方が少なく積極的には行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに四季に合った飾りつけをしたり、室温についても、温度管理に気を配っている。	得意な職員が月ごとに利用者と壁面制作を手がけ、3月はひな祭り、4月は桜、とユニットを彩っています。リビングで新聞を広げ、毎日ゆっくり目を通す人のために食卓テーブルの他に机をひとつ増やし、共用空間の中でもお互いの居場所を確保しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやご自分の席で過ごされたり、気の合った利用者同士での居場所に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から持ってこられるものは持って来て頂き、自宅の部屋を再現できるように、家族へお願いをしている。入居されてからも、動線を意識しリスクの少ないレイアウトを心掛けている。	テレビや机、筆筒、冷蔵庫などが持ち込まれ、入居の際には家族と相談して、居心地よく過ごせる部屋を模索しています。スッキリ何も無い部屋が好き、たくさん飾りたい、物に囲まれて暮らしたい、などリスク回避を念頭に置きつつその人らしさを大切にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドサイドの手摺のレンタル(車椅子使用の方)や言葉のカードの作成(難聴の方)など、相手の気持ちになり、極力自立した生活ができるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297300028		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム袋井(西ユニット)		
所在地	静岡県袋井市堀越2-14-1		
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyogyoCd=2297300028-00&serviceCd=320&type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺の環境面として、近隣に入居者様と一緒に散歩ができる大きな公園があります。天気の良い日には、散歩などにも出かけて気分転換を図っております。飲食店やホームセンターなども車で5分以内の場所が多く、外出の機会を持ちやすい環境に恵まれているため、事業所外の活動も定期的に行い、普通の生活が継続できるよう努めております。また、ご利用者様の心身の状況や認知症の症状について情報収集と分析を行い、適量の水分摂取や栄養改善、運動などのプログラムを実施し、心身の状態を整え、症状を改善・緩和させることによって、もう一度自分の思いを表出できるような状態をつくり、一人ひとりの当たり前の生活を実現し、その人らしく生きることを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人をあげて力を入れた「自立支援ケア」で目覚ましい変化がみられた事業所です。暴言があり、お茶を淹れても口にできなかった利用者に寄り添って、屋外でもコーヒーやお茶を勧めたところ徐々に水分摂取量が増え暴言もなくなり、歩行能力のアップと夜間の安眠につながっています。また、幻覚や幻聴で眠れず表情が陰しかった人には、ココアやミルクティーなど好みの飲み物を聴き出して提供を続け、その結果幻覚等の出現がなくなり服薬量も減るとともに生活リズムが改善され、穏やかな表情を取り戻すなど、エビデンスに基づいたケアでその人本来の姿を知ることができた達成感に職員はやりがいを感じています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を掲げその理念を掲示しながら、共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティア等の受け入れや、運営推進会議の定期的開催、地域の防災訓練参加や納涼祭への参加など行っているが、ホームから発信することがまだ少ない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は認知症サポーター講座の講師参加など、認知症の関係で協力できるところは行っていたが、コロナ禍もありできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて集まり自体ができず		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの連絡については、メール連絡が主であり、ホーム側からの連絡については内容の重要度を考え、電話やメール、実際に行政を訪問したりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の研修や予防週間の設定を行ない、身体拘束についての理解と予防を会社全体で行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダーには、チェックシートを2ヶ月おきに記入してもらい、各ユニット内での状況を確認し報告をしてもらうようになっている。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回ではあるが、全体会議内で研修を行っている。なかなか制度自体を全て理解できるような所までは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書等の読み合わせを行ない、説明を行なっている。不明な点があれば、随時問い合わせに返答を行っている。(管理者)		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本社にて毎年ご家族様アンケートを行ない、状況を把握している。結果はホーム内へ掲示する事と、問題点については対応策を検討し、ご家族様に対してもお便りにてアンケート結果を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行ない、職員の要望を確認している。契約社員については、契約締結前には必ず行っている。正社員については、随時行う形である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	マネージャーにて、各ホームの点検を行ない、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて研修を担当する部署があり、管理者の研修や新卒スタッフ研修なども積極的に行なっている。中途採用のスタッフについては、各エリアマネージャーが中心となり、研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は近隣のグループホームとの交流があり、運営推進会議への参加やお互いの行事への参加もあったようだが、現在は行っていない。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、家族に記入して頂いた情報をもとに、まずは傾聴を心掛けるようにしている。信頼関係を築く事を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームへ入居するに当たり、聴き取りができる範囲で困っている事、不安な事について伺っている。しかし、家族関係など言いにくいことなどがあった場合、入居されてからわかる事もある為、随時調整を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプランへ反映できることは行っているが、入居されてからわかってくこともある為、随時ケアプランへ織り込む形を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なかなか出来ていないのが現状である。どうしても職員のペースで行ってしまう事が多くなってしまふ。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かがあればご家族にすぐ連絡し来て頂いたりして、共に本人を支えていく関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にてできていない		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性などや性別なども考慮し、利用者同士が支え合って生活できるように努めている。(食席の考慮など)		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的には行っていないが、クレーム等の考えから、ご家族様から要望があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話などから、思いや意向を知ることが心掛けているが、なかなか出ていない状況である。どうしても職員主導になりがちである。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聴き取りを行ない、生活歴の把握に努めている。(聴き取りは、ご家族様が主となる)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時にアセスメントを行ない、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス(ユニット会議)を行ない、意見を出し合い、介護計画を作成している。ご家族様には、電話や面会の時に話を伺っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録があり、生活における記録をつけている。情報共有しなければいけないことは、書面にして伝えたり、連絡ノートに記入しユニット内の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型デイサービスも2021年4月より開設、現在は人不足により受け入れができていない。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内の取り組みだけにこだわらず、インフォーマルサービスを活用した取り組みも行っている。地域の俳句の会や敬老会など参加していたが、コロナ禍もあり行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の確認を行っているが、今までの所が良いようであれば、無理に主治医の変更は求めていない。しかし、実際には受診の付添いの関係により、ホームの往診を希望されるご家族がほとんどの状況。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1~2回の勤務(7時間)ではあるが、限られた時間の中で体調管理を中心に行ない、普段の状況を的確に伝えるように努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急搬送される病院が開催する情報交換会には参加をしている。入院した際には、情報提供を社内の書式にて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応などについても、書面にて説明と同意を頂く書類を準備している。特に看取りについてのホームでの考え方については、しっかりと説明を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご家族様への緊急時連絡ファイルを整備し、急変や事故の発生に備えている。研修の中でシミュレーションを行ない、実際に起こった時を想定し、対応方法を勉強した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回の訓練(法律上の必要回数)を実施している。地域の方も参加できる形が良いと思われるが、まだ実施できていない状況。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	禁止用語の掲示など、言葉使いにはきをつけて声掛けをしているが、なかなか全ての職員ができていくわけでは無く、改善が必要。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類などについては、自分で選択できる方は行って頂いているが、どうしても同じ服に偏りがちである為、職員が立ち会うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務フロー的な部分で動いてしまう傾向があり、利用者一人一人の希望に沿ってすべてで来ているわけではない。それに向けて努力は行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで頂き、お化粧品もされている。爪や髭などについても気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みによって、ランチョンマットを使用されている方もいる。その日の状況によってもあるが、お箸をセットしたり食事の配膳を行ったりして頂く。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理については、本社にて献立を作成している。水分量は毎日チェック表をつけて管理している。(毎日1000mlは飲むように心掛けている)飲みすぎてしまう方もいるため、注意をする場合もあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の訪問歯科と口腔ケア(朝・夕が基本)を行ない、誤嚥性肺炎などの予防を行っている。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ごとに排泄表をつけながら、排泄のパターンを理解しトイレでの排泄の援助や、失禁にて不快な思いをさせないように努力を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を管理し、運動への働きかけは近くの公園などへ散歩に出掛けている。日報への便秘日数記入により、職員の便秘への意識を高めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は午前中の中の入浴が主であるが、行事の関係や季節によっては外出を行う事をメインに、午後の時間に入浴を行う事もあり。声掛けにて入浴して頂き、無理強いはいしない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子を使用されている方や、足の浮腫が目立つ方は午後の時間など、横になって頂く機会を持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所に全利用者が処方されている薬の一覧を準備している。各ユニットにも、処方内容がわかるようにコピーしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味的な事については、その方が何が好きなのかを把握して、外出やホーム内での過ごし方に役立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて家族や地域の方々との外出ができない状態が続いている。職員が花見、いちご狩りなど考え外出している。		

自己評価および外部評価結果

西ユニット

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、職員が管理しているが、外出時にお金を手渡し払って頂くこともある。しかし、被害妄想などのある場合などには、出来ない場合が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から要望があれば、事務所など落ち着いた場所でかけてもらうようにしている。手紙については、書かれる方が少なく積極的には行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに四季に合った飾りつけをしたり、室温についても、温度管理に気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやご自分の席で過ごされたり、気の合った利用者同士での居場所に工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅から持ってこられるものは持って来て頂き、自宅の部屋を再現できるように、家族へお願いをしている。入居されてからも、動線を意識しリスクの少ないレイアウトを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドサイドの手摺のレンタル(車椅子使用の方)や言葉のカードの作成(難聴の方)など、相手の気持ちになり、極力自立した生活ができるように配慮している。		